

AIを活用した

脆弱性診断 の内製化

登壇者紹介



株式会社エーアイセキュリティラボ

CX本部プリセールスリーダー **高橋 貴弘**

小売店向けPOSレジサービス等のセールスとして約3年間従事したのち、定期通販向けカートシステム業界にてカスタマーサクセスリーダーを担当。ECサイトにおけるDX推進を100社以上支援し、業務フロー改善やKPI設計にも深く関わる。

2023年より現職。プリセールスリーダーとしてAeyeScanの導入支援に多数携わり、エンタープライズからSaaSスタートアップまで、さまざまな企業の課題解決を支援している。

Webアプリの脆弱性を狙ったサイバー攻撃も多数発生している

【Webアプリケーションを狙ったサイバー攻撃事例】

2025/8	不正アクセス	ホビー通販サイトが改ざん被害 クレジットカード情報を含む個人情報が外部に流出した可能性
2025/8	サイバー攻撃	ビジネス交流会サイトに攻撃試行 - 攻撃遮断も一時閉鎖
2025/8	不正アクセス	採用情報ページでシステム障害。一時ページの閲覧ができない状態が発生
2025/7	不正アクセス	大手飲食店テイクアウトサイトでサイバー攻撃、クレジットカード情報を含む個人情報が外部へ流出した可能性。システムの脆弱性を悪用した不正アクセスを受けていたことが判明
2025/6	不正アクセス	ファッション通販サイトに不正アクセス、多くの利用者に対し、心当たりのないログイン通知メールが送信

2024年の個人情報／クレジットカード情報の流出状況

業種	件数	個人情報流出件数	クレジットカード流出件数
食品・飲料製造業	6件	178,319	117,460
飲食業	2件	107,959	69,365
卸売業	2件	69,781	33,641
小売業	4件	67,677	35,612
美容機器製造業	1件	65,520	4,748
IT・通信業	1件	21,398	1,432
農業	1件	14,933	5,069
アパレル製造業	2件	7,020	4,948
スポーツ業	1件	2,726	2,726

※流出の可能性も件数に含む。

サイバーセキュリティクラウド調べ（2024年10月11日時点）

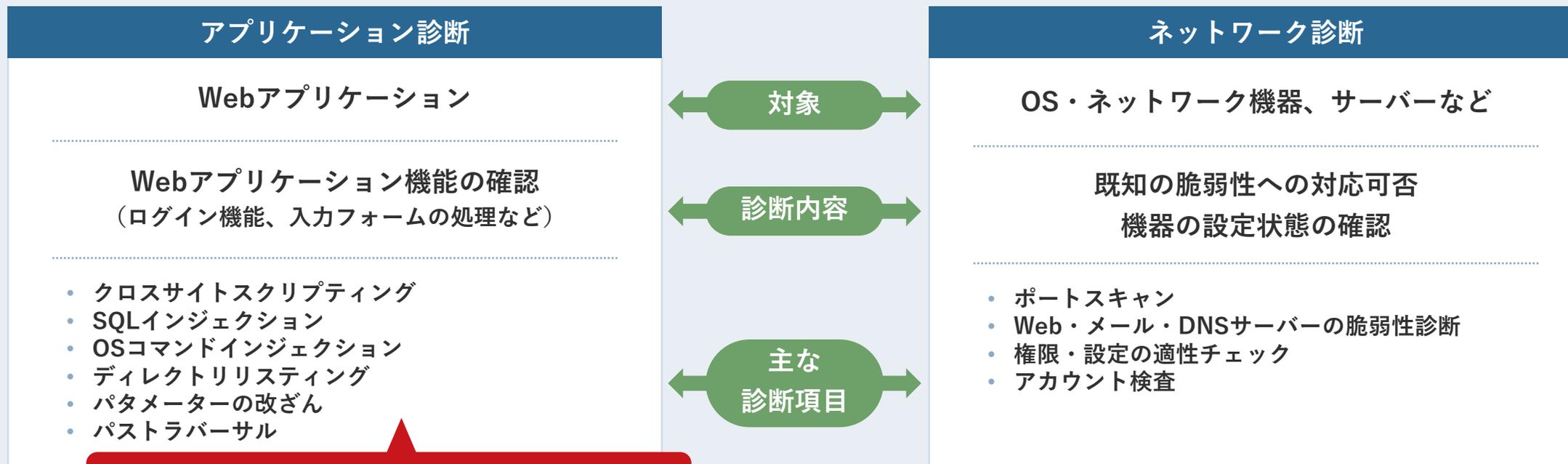
Webアプリケーションにおける脆弱性対策の重要性が増してきている

参考：株式会社サイバーセキュリティクラウド「Webアプリケーションへのサイバー攻撃検知レポート」：<https://www.cscloud.co.jp/news/press/202410227554/>

脆弱性診断とは

脆弱性診断とは、脆弱性を突いた攻撃を受けたとき、被害につながる可能性がないか検証することです。診断結果をもとにセキュリティ対策をすれば、サイバー攻撃による不正アクセスや情報漏えいリスクの低減が可能です。

脆弱性診断は大きく分けて2種類

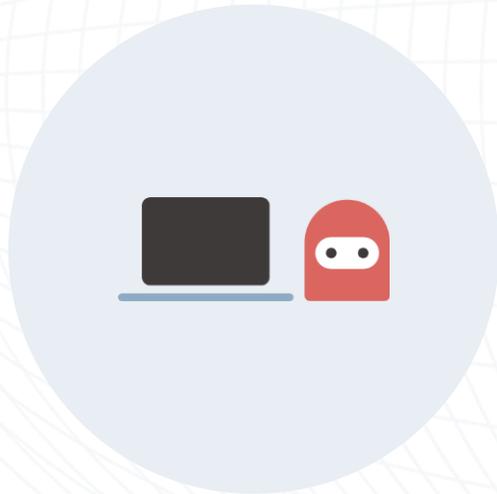


Webアプリの脆弱性診断はこちら

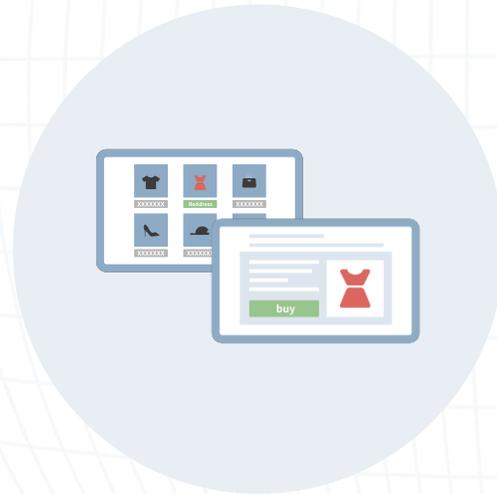
脆弱性診断の必要性

脆弱性は完全に無くなることはありません。

リスクにいち早く気付くためにも **定期的に脆弱性診断を行う必要があります。**



サイバー攻撃の
リスクを低減するため



安全な
自社サービスの
提供のため



効率的な
セキュリティ対策の
実施のため



開発手法の
多様化に対応するため

脆弱性診断を実施する前に検討すること

脆弱性診断を実施する前にどのように運用していくかを定める必要があります。

脆弱性診断の運用設計



外部委託



内製化

本セミナーでは、脆弱性診断を内製化する場合について説明します

内製化に取り組むべきケース

以下に該当すれば内製化を取り入れるのがおすすめ。



複数のWebサイト
やWebサービスを
提供している



Webサイトの
規模が大きい
(100画面以上ある)



機能改修や
サービス追加など、
リリース頻度が高い



| AIを活用した脆弱性診断ツールなら、業務と費用の最適化が期待できる

継続的・永続的に対策が必要



専門知識を持つ人材・
対策工数がかかる

網羅的な診断が望ましい



必要な費用・工数も増える

AIを活用したクラウド型Webアプリケーション脆弱性診断ツール
AeyeScanをご紹介させていただきます！



生成AI時代の脆弱性診断なら

AeyeScan

クラウド型Webアプリケーション
脆弱性検査ツール

国内市場シェア

No.1※

※富士キメラ総研調べ「2024 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」
Webアプリケーション脆弱性検査ツール（クラウド）2023年度実績

※ITR調べ「ITR Market View：サイバー・セキュリティ対策市場2025」SaaS型
Webアプリケーション脆弱性管理市場：ベンダー別売上金額シェア（2023年度実績）

有償契約
300社以上



01

高精度なAI活用

巡回精度が高く
画面遷移図で見てわかりやすい

02

学習コストゼロ

開発やセキュリティの
知識がなくてもすぐに使える

03

業界標準対応

外部委託と遜色なく
内製化が可能

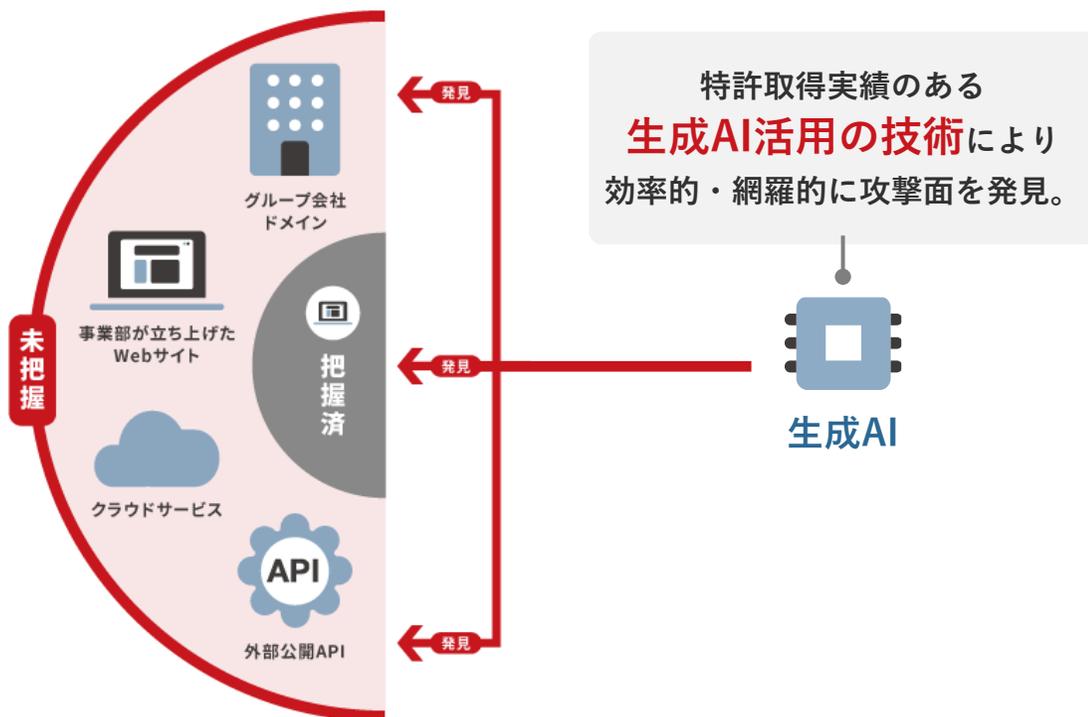
生成AIを活用し、常に自社Webサイト・ドメインを網羅的に把握

オプション機能

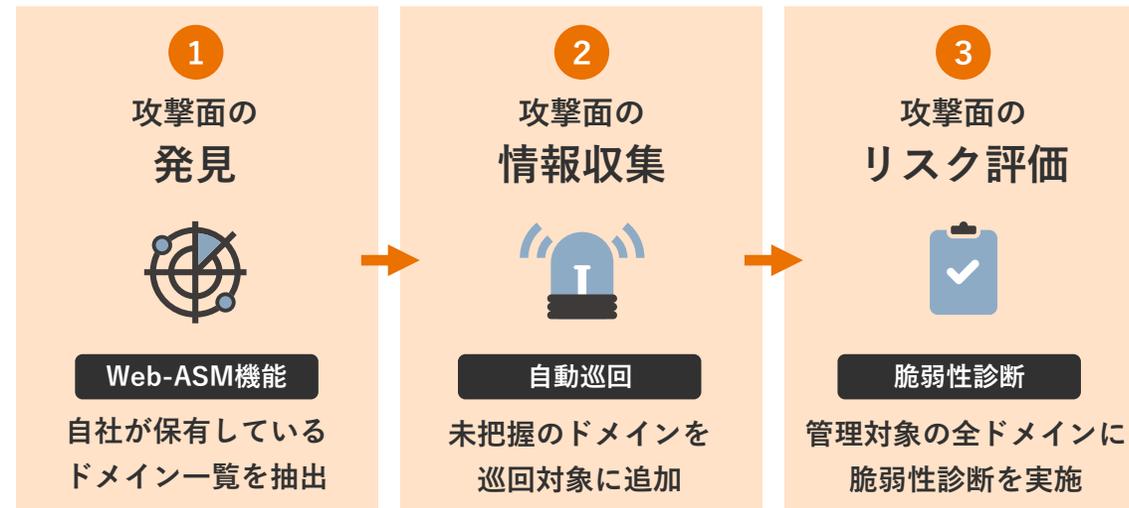
Web-ASMとは？

未把握の攻撃面を含めた、自社が管理すべきWebサイト（ドメイン）の継続的&網羅的な発見・リスク評価※

※AeyeScanのスク্যানによる



Web-ASMの実施ステップ



AeyeScan ひとつで、

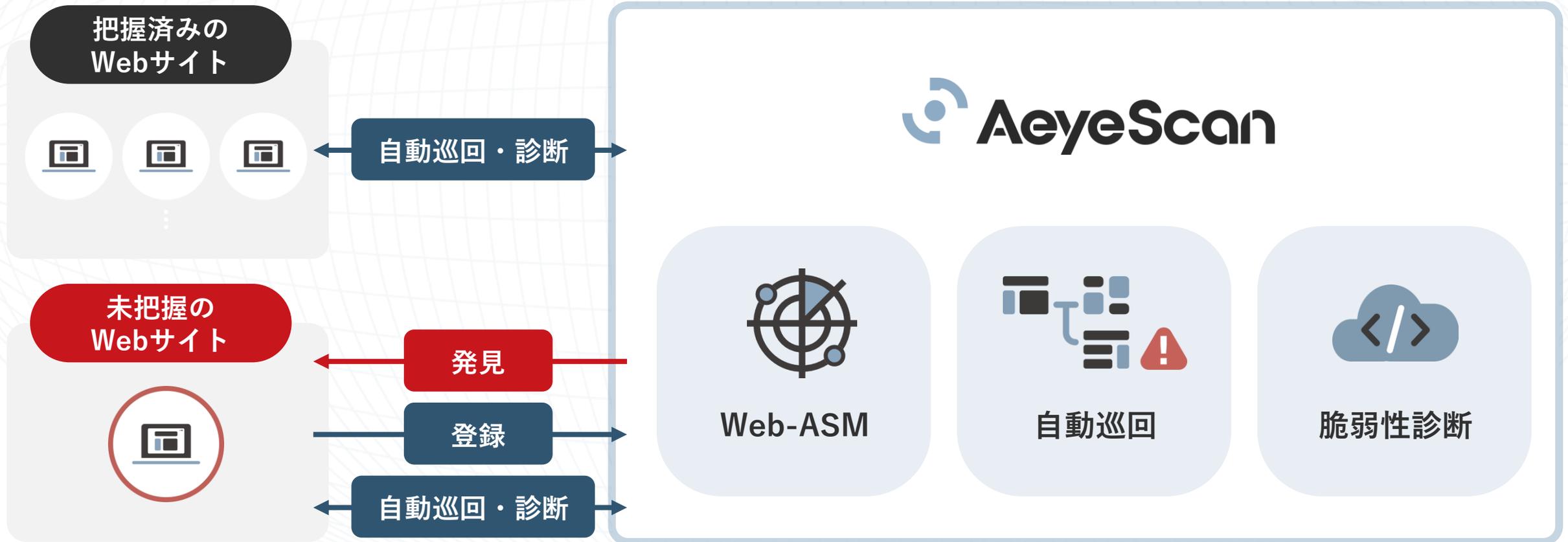
より網羅的な脆弱性診断とリスクマネジメントが可能に！

| AeyeScanひとつで、デジタル領域のセキュリティをトータルサポート

公開Webサイトの検出

Webサイト全体の把握

脆弱性診断によるリスク評価



Demonstration

製品デモ

生成AIの活用による高度な自動化を実現

オプション機能

1 診断設定がさらにカンタンに

- ・フリーフォーマットでの指示



特許 第7320211号

設定

2 巡回がより柔軟に進化

- ・多言語対応
- ・フリーフォーマットでの指示
- ・画面の自動類似判定



特許 第7348698号

巡回

4 高度なレポート出力も可能に

- ・診断結果を元に総評を生成



特許 第7320211号

レポート

3 手動で診断していた項目にも対応

- ・パラメータの用途を推測
- ・セッションIDの規則性を解析



特許 第7344614号

診断



生成AI

導入事例紹介

エイチ・アイ・エス 様



企業名 株式会社エイチ・アイ・エス

事業内容 総合旅行会社

従業員数 10,849人 (2023年6月時点)

課題

セキュリティの内製化が困難。
診断の外注コストを削減したい

具体的な課題

- 1 社内からの診断依頼が増え続けていた
- 2 診断対象が多く外部委託せざるを得ない
- 3 外注による診断コスト増

内製・外製含め100を超えるWebアプリケーションがあり、内部の体制だけでは全ての診断実施に対応できず、一部を外部に委託。コスト削減と体制整備が課題だった。

導入

情報処理推進機構（IPA）の検証結果と
「7割以上自動化」という点が決め手

導入の背景

- 1 手動の診断では対応が追いつかず自動化を検討していた
- 2 自動化できても性能が落ちない製品を探していた

手動作業を伴う診断では対応が困難になり、診断の自動化を検討。AeyeScanは、IPAの検証結果が高評価だったことと、「7割以上の自動化が可能」という点が決め手で導入。

効果

診断・レポート作成工数を大幅に削減。
さらなる内製化比率の向上を目指す

具体的な効果

- 1 診断の大部分を自動化し工数を削減
- 2 レポート機能により大幅に時間を短縮
- 3 リリース前に診断と脆弱性改修が完了

「脆弱性が発覚しても、リリースまでに修正が間に合わない」という悩みも解消され、脆弱性を潰してからアプリをリリースできるように。

 **AeyeScan** (エーアイスキャン) により
セキュリティ対策にかかる **コストを削減!**



クラウド型Webアプリケーション
脆弱性検査ツール

国内市場シェア

No.1※



有償契約
300社以上

※富士キメラ総研調べ「2024 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」Webアプリケーション脆弱性検査ツール〈クラウド〉2023年度実績
※ITR調べ「ITR Market View：サイバー・セキュリティ対策市場2025」SaaS型Webアプリケーション脆弱性管理市場：ベンダー別売上金額シェア（2022年度実績）

プロが認める品質・精度

セキュリティベンダーやSIerでも
顧客向けサービスとして活用



ブラウザ上での直感的な操作

専任エンジニア不要、情シスや開発部門でも
安定した運用が可能

さまざまな企業さまに導入いただいております

ユーザー企業

製造



メディア



インフラ



人材・教育



金融



エンタメ



Leverages



SaaS



SI・IT企業



セキュリティ企業





AeyeScan

セキュリティに、確かな答えを。